

① 経営業績評価指標 (KPI1)				内部検証		外部検証	
指標名	目標値	実績	達成率	【取り組み状況】	【今後の取り組み】	◎検証結果	コメント
まちづくり計画の策定自治会数	6 (件/年)	6 (件/年)	100.0%	<p>② 地域住民による自主的なまちづくりを進めるため、一般コミュニティ助成の申請にあって、まちづくり計画の策定について支援しました。(1団体)</p> <p>③ 地域や自治会等で課題に気づき、話し合う機会をもちもたらすよう出前講座を実施しました。</p> <p>④ 日野地区運営協議会との共催により、地域課題として、「男女問わずみんなの視点を活かした自治会活動」について考える機会として講座を開催しました。</p>	<p>・まちづくり計画の策定については、地域住民自らからその地域を治めるといふ自治の基本的な再認識につながることを考えています。このことから、その地域の課題を解決したという意識の高まりによって、地域の一人ひとりの意思等を踏まえた計画策定にむすびつくよう引き続き働きかけます。</p> <p>⑤ 将来人口推計や先進的な取り組みなどの資料提供や出前講座等により、地域で話し合う機会づくりに努めます。</p>	◎検証結果	<p>・回覧世代が会社でのノウハウを自治会運営にとり入れてもらおうとか、若い人が地域づくりに参加できるよとアピールするなど、これまでもがきています。</p> <p>・市内会議室は、みんなで作るものという意識付けが必要で、向き向きでやることも必要です。向き向きでやることも必要です。</p>
H28	12 (件/年)	12 (件/年)	100.0%	<p>《実施していること》</p> <ul style="list-style-type: none"> ② 地域住民自らから、問題意識をもち、課題について話し合える場を提供し、地域の子どものために、男女みんなが話し合う機会を作っています。 ③ いかにかに楽しく地域の課題を解決していくかという視点での話し合いや地域の他のコミュニティとの連携ができていないのが現状です。 ④ 《実施が困難なこと》 ・地域でのコミュニティの基礎といえる家庭での子育てについては、学級教育や生涯学習の観点からの取り組みが必要で、 	<p>《基本目標、基本的方向を踏まえて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域でのまちづくり計画は、その過程を通じて地域課題の把握や地域の再認識につながるため、これからは、その計画を策定していくために、住民が自ら学び、取り組みをすることに対する支援として、出前講座の内容や計画案等に向けての情報提供を行う必要があるかと考えています。 ・《今後の課題》 ・今後、人口が減少し、自治活動の基礎である自治会の運営が単に難しい状況になると考えられ、今後のことから、これまでの自治活動の展開したところについて、住民自らが取り組みにむかっている点の働きかけについてもどうした展開が効果的かなど検討していく必要がありそうです。 	B	
H29	15 (件/年)						
H30	18 (件/年)						
H31	21 (件/年)						
目標値 (H31)	21 (件/年)	12 (件/年)	57.1%				

【評価が下がったことに対する懇話会からの再コメント】

- ・評価がAからBに下がりました。
- ・出前講座で後継から教えに行く時代は終わったのではないですか。
- ・受け身ではなく住民自らが自分たちに向か必要を寄せさせるようにもっていくことが必要です。どのような取り組みができるか検討してください。

【担当課からのコメント】

- ・住民の活発な自治活動を持続発展させられるよう、地域課題について住民自らが発見し、学び、取り組みに繋げていけるような出前講座の内容にシフトしていくことを検討します。

(KPIの見直し内容)

指標名	見直し理由	指標名	見直し理由	
まちづくり計画の策定自治会数	見直し無し	見直し無し	見直し無し	
年度	前	後	前	後
H28		H28		H28
H29		H29		H29
H30		H30		H30
H31		H31		H31

施策策検証シート

家庭でのきずなはもとより、地域での人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、地域の力を活かした課題解決能力を高めることで、住民の活発な自治活動を持続発展させ、これまでの自治活動の見直しも含め、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。

くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる
 ○地域での人と人のつながり（きずな）を育むため、地域の多様なコミュニティが連携する住民主体の活動を支援します。
 ○人と場所と機会をつなぐ、人材・資源を促進します。
 ○住民主体の出会いの場づくりにより、地域に属する人同士の「おたがいさま」の助け合い、自分の「自覚」を持ち寄り、生かす取り組みをつくり出します。
 ○顔の見えるつながりの中で「困りごと」を出し合い、支えあおうなど、地域のコミュニティ活動を支援します。
 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・介護・防災などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。

施策内容
 ・自治会などにおいて、地域のマンパワーとして、福祉協力の活躍の場を並び、地域福祉の中心を担える体制を推進します。
 ・閉じこもりやひとり暮らしなど、支援が必要な高齢者が適切な支援を受けられるよう民生委員児童委員・福祉協力量員・福祉協力量員・福祉協力量員・福祉協力量員と連携し、見守り活動を促進します。

① 重要業績評価指標 (KPI)		内部検証		外部検証	
指標名	民生委員児童委員	福祉協力量員数	福祉協会設置数	【今後の取り組み】	◎検証結果
基準値	72人	404人	59件		
現在値	72人	413人	59件		
達成率	100.0%	99.3%	59件		
達成率	100.0%	99.3%	59件		

達成	②	③	④	⑤
<ul style="list-style-type: none"> 民生委員児童委員を中心に地区の社会福祉協議会や福祉協会等において多様な活動を展開いただいている。 《実施していること》 <ul style="list-style-type: none"> 町内各地で多様な活動が地域の方で実施され、多くの住民が行事に参加しています。 地域での福祉会の活動により地域でのつながりを守っています。 一人暮らしの老人の訪問など見守り活動を実施しています。 《実施できていないこと》 <ul style="list-style-type: none"> 特にありません。 《実施が困難なこと》 <ul style="list-style-type: none"> 支援を受けようとしていない方への支援への働きかけが必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員児童委員を中心に地区の社会福祉協議会等において多様な活動を展開いただいている。 《基本目標、基本的方向を踏まえて》 <ul style="list-style-type: none"> 現在、地域の住民自らが自分たちで、地域にとって必要な事業を計画し実施いただいている。活動が今後継続していくよう支援していく必要がある。 すべての人がつながる活動の実施が必要である。 《今後の課題》 <ul style="list-style-type: none"> 高齢化が進みますますます進む中での事業の継続が課題です。 			

72人	72人	413人	416人	100.0%	59件	59件	100.0%
72人	72人	413人	416人	100.0%	59件	59件	100.0%

①重要業績評価指標 (KPI)				内部検証				外部検証	
指標名	民生委員児童委員	福祉協力員数	福祉施設数	【取り組み状況】	【今後の取り組み】	◎検証結果	コメント		
基準値 (H28)	72人	404人	59ヶ	民生委員児童委員、福祉協力員とともに地区社会福祉協議会に参画し、地域の課題解決のための講演会等を実施しました。配食サービス実施のための健康推進委員の協力を得て食料宅配に配慮を行いました。米製ひょうたん等の取り組みを推進しました。要援護者等による高齢者への訪問を実施しました。	民生委員児童委員を中心に地区社会福祉協議会等の活動を支援します。地区社会福祉協議会を窓口として、2地区をモデルにして、グループワークを取り入れながら、地域の困りごとやお宝がし等地域課題の発見と解決方法について、地域住民による研究等を実施します。				
H28	73人	406人	65ヶ	96.7%	420人	96.8%			
H29	73人	425人	70ヶ		425人				
H30	73人	435人	75ヶ		435人				
H31	73人	450人	83ヶ		450人				
目標値 (H31)	73人	450人	83ヶ	90.2%	406人	71.1%			

指標名 民生委員児童委員				指標名 福祉協力員数				指標名 福祉施設数			
見直し理由	前	後	見直し理由	前	後	見直し理由	前	後	見直し理由	前	後
H28			H28			H28			H28		
H29			H29			H29			H29		
H30			H30			H30			H30		
H31			H31			H31			H31		

(KPIの見直し内容)

指標名	見直し理由	前	後	見直し理由	前	後	見直し理由	前	後
H28				H28			H28		
H29				H29			H29		
H30				H30			H30		
H31				H31			H31		

B

《基本目標、基本的方向を増やして》
 ・地域のお宝や課題に対する共通の理解と支援をとおし、お宝のつなごうをつくっていきます。
 《今後の課題》
 ・地域における支え合いや絆の必要性の理解は進んでいますが、今後は住民主体で取り組む意識の向上も必要となります。
 ・地域課題解決に向けた取り組みを実施する際、それを必要としない子ども、自身の困り事とすることでさらさない子どもの意識の差を無くすための取り組みが必要です。
 ・1人で行動を起こすことは難しいため、支え合いを必要とされている若年層の横のつながりに対する支援が必要となります。

②
 ・民生委員児童委員、福祉協力員とともに地区社会福祉協議会に参画し、地域の課題解決のための講演会等を実施しました。配食サービス実施のための健康推進委員の協力を得て食料宅配に配慮を行いました。米製ひょうたん等の取り組みを推進しました。要援護者等による高齢者への訪問を実施しました。
 ・福祉協力員については、宇福社会に参画し、地域の子どもたちによる高齢者訪問の支援や高齢者の集いの場を提供しました。
 《実施していること》
 ・地区社会福祉協議会の取組もおおひろ福祉会の子育て支援や支え合い、学習活動に對し、社会福祉協議会による助成金を交付しています。
 ④
 《実施できていないこと》
 ・地域資源や人材の発掘・発掘に対する取組みや人となりを活かせる横の取組みへの支援ができていません。
 ⑤
 《実施が困難なこと》
 ・本日は支援が必要にもかかわらず、ギリギリまで見せようとしていない者や、困り事として認識されていない者へのサポートが困難です。

基本目標、基本的方向を増やしての状況

施策検証シート

白野町くらし安心づくり総合戦略

基本目標4	くらしやすい地域をつながり、安心して住み続けられるまちをつくる	家庭での言はずなばもどより、地域での人と人のつながり(きずな)を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、地域の力を活かした課題解決能力を高めることで、住民の活発な自治活動を持続発展させ、これまでの自治活動の見直しも含め、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。
基本目標3	地域での人と人のつながり(きずな)を育むため、地域の多様なコミュニティが連携する住民主体の活動を支援します。	〇人と場所と機会をつなぐ、人材・資源を共有し、地域に暮らす人同士の「つながり」の助け合い、自分の「目標」を持ち寄り、生かすことを目指します。 〇住民主体の出会いの場づくりにより、地域のコミュニティ活動を支援します。 〇顔の見えるつながりの中で、「困りごと」を出し合い、支えあう「きずな」を育む。 〇自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。

施策内容	市民活動のリーダー育成やボランティアの組織化を図ります。
------	------------------------------

①重要業績評価指標(KPI)		内部検証		外部検証	
指標名	ボランティア団体の登録数	【取り組み状況】	【今後の取り組み】	⑤検証結果	コメント
重要目標達成状況	16団体	②	③		
担当部署	福祉保健課	実施	計画		
16団体	16団体	100.0%			
16団体	16団体	100.0%		B	<ul style="list-style-type: none"> 自治活動などを通じて、市民活動のリーダー育成に努めています。 大規模災害時のボランティアセンターの運営体制を確立するとともに、生活圏単位でのボランティア活動の推進に努めています。
16団体	16団体	100.0%	<p>《実施していること》</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティア連絡協議会を組織し各大学、福祉会や施設でボランティア活動を実施しました。 《実施できていないこと》 大規模災害への備えが必要です。 組織に加盟していない多くのボランティア団体との連携が必要です。 <p>《実施が困難なこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> 若い人、男性の会員の拡大していくことが困難です。 	<p>《今後の課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティアセンターに登録していない多くの団体があり個別に活動されているが、大規模災害に備え連携を図る必要があります。 若い人の参加を進め地域の自治活動の継続につなげる必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアセンターの活動の充実と会員の拡大を図るよう進めます。

①重要業績評価指標 (KPI)				外部検証			
指標名 基準値 (H28)	ポランティア団体の登録数		達成率	内部検証			
	実績	目標		【取り組み状況】	【今後の取り組み】	◎検証 結果	コメント
担当部署 福祉保健課	16 団体	16 団体	100.0%	<p>② 「心ふれあう福祉のつどい」において、ポランティア団体の活動についての発表を行い、広く周知を取りました。</p> <p>③ 自らの地域での取り組みを再発見するとともに、様々な地域で取り組まれている方々を参考に今後の活動に活かしてもらうため、サロン実施者の交流会を実施しました。</p> <p>④ 地域で介護予防（認知症予防）に取り組んでもらうためのリーダーの養成と実践の講習会を実施しました。</p>	<p>ポランティア運動協議会において、各団体の活動内容を記したPRチラシを作成し、社協広報にはさみ込みできるよう取り組みます。</p> <p>ポランティア団体の活動発表の場を提供します。</p>	<p>◎検証結果</p> <p>B</p>	<p>趣味のグループを団体にすると、団体育成の視点を持ってください。</p> <p>・日常的にお客さん、だっただらばうちに、空けてよりやっただらばという意識改革が必要です。</p>
H28	16 団体	16 団体	100.0%	<p>実施していること》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成のため、日野高校福祉体験学習への協力を行いました。 ・地域のサロン等に出向き、コミュニケーション活動の支援を実施しました。 <p>④ 《実施できていないこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存のポランティア団体のメンバーが固く定量化しており、新たな人材を確保や育成に向けた取り組みができていません。 <p>⑤ 《今後の課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポランティアの必要性についての理解は得られているものの、実践の活動・行動に向けた支援・取り組みが必要です。 <p>《実施が困難なこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特にありません。 	<p>《基本目標、基本的方向を踏まえて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における様々な助け合いについて、見える化できるように取り組みます。 ・様々な団体の取り組み内容をPRできるような機会を持つように努めていきます。 		
H29	16 団体	16 団体					
H30	16 団体	16 団体					
H31	16 団体	16 団体					
目標値 (H31)	16 団体	16 団体	100.0%				

(KPIの見直し内容)

指標名	ポランティア団体の登録数		指標名	見直し理由	
見直した理由	前	後	見直した理由	前	後
年次	前	後	年次	前	後
H28			H28		
H29			H29		
H30			H30		
H31			H31		

基本目標 4 家庭でのきずなはもとより、地域での人とのつながり（きずな）を高め、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、地域のかをを活かした課題解決能力を高めることで、住民の活発な自治活動を継続発展させ、これまでの自治活動の見直しも含め、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。

基本目標 4 くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる
 ○地域での人と人のつながり（きずな）を育むため、地域の多様なコミュニティが連携する住民主体の活動を支援します。
 ○人と機を機会をつなぐ、人材・機を支援します。
 ○住民主体の出会いの場をつくり、地域に暮らしやすい環境を整えます。
 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごと」を出し合い、支えあおうなど、地域のコミュニティ活動を支援します。
 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。

施策内容 4 コミュニティビジネスの創出
 ・地域で活躍している人材と連携し、コミュニティビジネスを創出することにより、地域課題の解決に結びつけ、コミュニティの活性化を図ります。

①重要業績評価指標 (KPI)		内部検証		外部検証	
指標名	目標	実績	進捗率	【今後の取り組み】	⑤検証結果
コミュニティビジネスの創出	0件				
企業活動	0件				
担当事業	0件				

実施 ②
 ・全国で取り組まれているコミュニティビジネスについて情報収集し、日野町で取り組めるものを探しました。
 ・地域で活躍している人材との連携、コミュニティビジネスで解決すべき地域課題の把握について検討しました。
 ③
 ・地域課題の把握と、それに対応するコミュニティビジネスについて情報を収集します。
 ・コミュニティビジネスの起業を検討している人材を把握するため、コミュニティビジネスの事例の情報発信に努めます。
 ・コミュニティビジネスの起業に係る、支援メニューの検討を進めます。

④
 《実施していること》
 ・人と人のつながりのもと、日野の地域コミュニティに相対しいコミュニティビジネスについて検討しました。
 《実施できていないこと》
 ・自らくらしやすい地域ができていないこと。
 ・人材の把握ができていないこと。
 ・実施が困難なこと。
 ・コミュニティビジネスが事業として一定の発展がとれます。町だけでなく、従来の専門家の知見も借りながら、その事業の発展が成り立つつか、地域の課題解決や活性化に効果があるのか検討が必要でです。

⑤
 《基本目標、基本的方向を踏まえて》
 ・安全で安心して住み続けられるまちを実現するには、コミュニティビジネスを介して顔の見えるつながりを築き、介するよう検討を進めます。
 ・今後の課題
 ・地域の課題を自ら解決していくという自治の力を町全体として高めていくことが必要です。そのもとでコミュニティビジネスの創出につなげることが、短期間でその意識を高めることは困難です。

コメント
 ・コミュニティビジネスを創業しようとする人材をバックアップする仕組みについても検討を進めてください。

①重要業績評価指標 (KPI)				内部検証		外部検証	
指標名 基準値 (H28)	目標値	達成率		【取り組み状況】	【今後の取り組み】	◎検証 結果	コメント
		実績	目標				
コミュニティビジネスの創業者 0 #	0 #	0 #	0 #	② 引き続き全国で取り組みが広がっているコミュニティビジネスについて情報収集し、日野市で取り組みができるものを検討しました。 ③ 地域で活躍している人材との連携、コミュニティビジネスで解決すべき地域課題の把握に努めるとともに、コミュニティビジネスを創業者として支援する人材をバックアップする支援制度について検討しました。	引き続き地域課題の把握と、それに対応するコミュニティビジネスについて情報収集します。 引き続きコミュニティビジネスの創業者を支援するための取組みを進めます。	◎	地域自治の力を高められる元となる、コミュニティビジネスの創出に向けて、継続的に意識を高めていくための取組みが必要と見込まれます。
H28	0 #	0 #	0 #	④ 《実施していること》 ・創業者の育成を促した安全・安心の暮らしを、お互いに支える中で継続させること、地域包括支援センター等関係機関と連携し、地域コミュニティに根拠を築き、地域課題の解決に貢献すること。 ⑤ 《実施していないこと》 ・専らしややすい地域をつくることと活躍する人材の把握と連携があまりできていません。 ⑥ 《今後の課題》 ・地域の課題を自ら解決していくという、自治の力を創業者として高めたいという意識が、継続する仕組みに繋がらないこと、結果的に創業者の知見も乏しいことから、地域の課題解決や活性化に効果があるのか検討が必要です。	《基本目標、基本的方向を踏まえて》 ・引き続き、安全で安心して住み続けられるまちを実現するには、コミュニティビジネスを介して、創業者の負担を軽減し、地域課題の解決に貢献すること、その地域が抱える課題の解決に繋がります。 《今後の課題》 ・地域の課題を自ら解決していくという、自治の力を創業者として高めたいという意識が、継続する仕組みに繋がらないこと、結果的に創業者の知見も乏しいことから、地域の課題解決や活性化に効果があるのか検討が必要です。	C	
H29	1 #						
H30	1 #						
H31	1 #						
目標値 (H31)	1 #	0 #	0 #				

【評価が低いままのことに対しての懇話会からの再コメント】

- ・評価がCからCのままで。
- ・H29年度からは、KPIの目標も上がってきます。
- ・具体的な取り組み方法を示してください。

【担当課からのコメント】

- ・コミュニティビジネスを創業者として支援する人材をバックアップする仕組みについても検討を進めます。
- ・地域自治の力を高められる元となる、コミュニティビジネスの創出に向け、継続的に意識を高めていくための関係課と連携し取り組みを進めます。

(KPIの昇進し内容)

指標名	指標名	指標名	昇進した理由	後	前	後
昇進した理由	昇進した理由	昇進した理由				
年度	年度	年度	年度	前	前	後
H28	H28	H28	H28			
H29	H29	H29	H29			
H30	H30	H30	H30			
H31	H31	H31	H31			

基本目標	4	家庭でのきずなはもとより、地域での人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、地域の力を活かした課題解決能力を高めることで、住民の活発な自治活動を継続発展させ、これまでの自治活動の見直しも含め、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。
基本目標	5	くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる ○地域での人と人のつながり（きずな）を育むため、地域の多様なコミュニティが連携する住民主体の活動を支援します。 ○人と場所と機会をつなぐ、人材・資源を有効活用し、地域の多様なコミュニティの助け合い、自分の「自覚」を持ち寄り、自分のコミュニティ活動を支援します。 ○住民主体の出会いの場づくりにより、地域に暮らしやすさ、地域のコミュニティ活動を支えます。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごと」を出し合い、支えあう。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。
施策		異分野・多世代交流の創出

施策内容
 ・公民館の行事や講座などに、公認サポーター（興味のある人）の参画を募り、行事や講座の企画段階から関わりを持ち、地域の中に分野や世代を越えた人と人をつなぐ仕組みづくりに取り組みます。

①重要業績評価指標 (KPI1)		内部検証		外部検証	
指標名	数値	【取り組み状況】	【今後の取り組み】	◎検証結果	コメント
公認サポーター活用数	0 事業	・主事会や議長会においてサポーターを活用した事業を数年後には展開できるように地域で検討してもらうことを依頼しました。 ・地域によっては、運動会や文化祭など特定行事のみ、実行委員以外の住民の協力を得ています。また、各町選出委員以外に職員やボランティアなど特別枠の実行委員制度を設けています。	・中央公民館では平成28年度の町民大学講座において、当面、サポーターに企画立案を中心に参加してもらおうよう取り組みを進めます。 ・地区公民館では現在の状況をベースとして、事業の企画や運営により主体的に携わってもらえるよう検討を進めます。	◎	・公民館の行事や講座を通じて、地域での分野や世代を越えた人と人をつなぐ仕組みづくりを努めてください。 ・公認サポーター制度を導入するとともに、これまでの実行委員会制度の充実も図ってください。
担当職員	生原 幸子	《実施していること》 ・中央公民館では平成28年度の町民大学講座に向けてサポーターを募集し、7名の意向を待たせた。 ・地区公民館では、事業運営面において一部では既にサポーターの活用が導入されているが、併せても活用が拡大していません。 《実施が困難なこと》 ・行動力のある若い世代の参画が求められているが、呼びかけてもなかなか協力してもらえない状況です。	《基本目標 基本的方向を踏まえ》 ・時代的課題や地域特有の課題について、住民自らが企画した内容の講座・教室等を開催することにより、自ら学び、自ら考えよう努めます。 《今後の課題》 ・従来の行事委員のなり手が年々少なくなっており、ある状況打開するため、共助の精神をもって公民館活動に参画してもらえよう、地域住民も交えた議論を深める必要があり。	◎	

<p>基本目標 4</p> <p>くらしやすい地域をつながり、安心して住み続けられるまちをつくる</p>	<p>家庭でのきずなはほもとより、地域での人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、地域の力を活かした課題解決能力を高めることで、住民の活発な自治活動を持続発展させ、これまでの自治活動の見直しも含め、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。</p>	<p>外部検証</p> <p>⑥検証結果</p> <p>コメント</p> <p>・一般就労が困難な人と、その人に合った中間就労の場をつなぐ支援員の育成を進めてください。</p>
<p>基本目標 7</p> <p>くらしやすい地域をつながり、安心して住み続けられるまちをつくる</p>	<p>〇地域での人と人のつながり（きずな）を育むため、地域の多様なコミュニティが連携する住民主体の活動を支援します。</p> <p>〇人と場所と機会をつなぐ、人材・資源を共有します。</p> <p>〇住民主体の出会いの場づくりにより、地域に導かれます。</p> <p>〇顔の見えるつながりの中で「困りごとを出し合い、支えあおう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。</p> <p>〇自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防災などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。</p>	<p>内部検証</p> <p>【取り組み状況】</p> <p>・農林業と福祉課の担当により町内での中間就労先の可能性について、協議しました。</p>
<p>施策内容</p> <p>7</p> <p>農林業を活かした中間就労の創出</p>	<p>・地域資源である農林業で、一般就労が困難な人を結びつなげることに、中間就労の場を創出します。</p>	<p>外部検証</p> <p>⑥検証結果</p> <p>コメント</p> <p>・一般就労が困難な人と、その人に合った中間就労の場をつなぐ支援員の育成を進めてください。</p>
<p>実施状況</p> <p>0ヶ所</p> <p>達成率 0%</p>	<p>【今後の取り組み】</p> <p>・個人経営ではなく、一定の就労が受け入れられるようは事業所を念頭に置きながら、就労への支援方を検討します。</p>	<p>内部検証</p> <p>【取り組み状況】</p> <p>・農林業と福祉課の担当により町内での中間就労先の可能性について、協議しました。</p>
<p>実施状況</p> <p>0ヶ所</p> <p>達成率 0%</p>	<p>【今後の取り組み】</p> <p>・個人経営ではなく、一定の就労が受け入れられるようは事業所を念頭に置きながら、就労への支援方を検討します。</p>	<p>内部検証</p> <p>【取り組み状況】</p> <p>・農林業と福祉課の担当により町内での中間就労先の可能性について、協議しました。</p>
<p>実施状況</p> <p>0ヶ所</p> <p>達成率 0%</p>	<p>【今後の取り組み】</p> <p>・個人経営ではなく、一定の就労が受け入れられるようは事業所を念頭に置きながら、就労への支援方を検討します。</p>	<p>内部検証</p> <p>【取り組み状況】</p> <p>・農林業と福祉課の担当により町内での中間就労先の可能性について、協議しました。</p>
<p>実施状況</p> <p>0ヶ所</p> <p>達成率 0%</p>	<p>【今後の取り組み】</p> <p>・個人経営ではなく、一定の就労が受け入れられるようは事業所を念頭に置きながら、就労への支援方を検討します。</p>	<p>内部検証</p> <p>【取り組み状況】</p> <p>・農林業と福祉課の担当により町内での中間就労先の可能性について、協議しました。</p>
<p>実施状況</p> <p>0ヶ所</p> <p>達成率 0%</p>	<p>【今後の取り組み】</p> <p>・個人経営ではなく、一定の就労が受け入れられるようは事業所を念頭に置きながら、就労への支援方を検討します。</p>	<p>内部検証</p> <p>【取り組み状況】</p> <p>・農林業と福祉課の担当により町内での中間就労先の可能性について、協議しました。</p>
<p>実施状況</p> <p>0ヶ所</p> <p>達成率 0%</p>	<p>【今後の取り組み】</p> <p>・個人経営ではなく、一定の就労が受け入れられるようは事業所を念頭に置きながら、就労への支援方を検討します。</p>	<p>内部検証</p> <p>【取り組み状況】</p> <p>・農林業と福祉課の担当により町内での中間就労先の可能性について、協議しました。</p>
<p>実施状況</p> <p>0ヶ所</p> <p>達成率 0%</p>	<p>【今後の取り組み】</p> <p>・個人経営ではなく、一定の就労が受け入れられるようは事業所を念頭に置きながら、就労への支援方を検討します。</p>	<p>内部検証</p> <p>【取り組み状況】</p> <p>・農林業と福祉課の担当により町内での中間就労先の可能性について、協議しました。</p>
<p>実施状況</p> <p>0ヶ所</p> <p>達成率 0%</p>	<p>【今後の取り組み】</p> <p>・個人経営ではなく、一定の就労が受け入れられるようは事業所を念頭に置きながら、就労への支援方を検討します。</p>	<p>内部検証</p> <p>【取り組み状況】</p> <p>・農林業と福祉課の担当により町内での中間就労先の可能性について、協議しました。</p>
<p>実施状況</p> <p>0ヶ所</p> <p>達成率 0%</p>	<p>【今後の取り組み】</p> <p>・個人経営ではなく、一定の就労が受け入れられるようは事業所を念頭に置きながら、就労への支援方を検討します。</p>	<p>内部検証</p> <p>【取り組み状況】</p> <p>・農林業と福祉課の担当により町内での中間就労先の可能性について、協議しました。</p>
<p>実施状況</p> <p>0ヶ所</p> <p>達成率 0%</p>	<p>【今後の取り組み】</p> <p>・個人経営ではなく、一定の就労が受け入れられるようは事業所を念頭に置きながら、就労への支援方を検討します。</p>	<p>内部検証</p> <p>【取り組み状況】</p> <p>・農林業と福祉課の担当により町内での中間就労先の可能性について、協議しました。</p>
<p>実施状況</p> <p>0ヶ所</p> <p>達成率 0%</p>	<p>【今後の取り組み】</p> <p>・個人経営ではなく、一定の就労が受け入れられるようは事業所を念頭に置きながら、就労への支援方を検討します。</p>	<p>内部検証</p> <p>【取り組み状況】</p> <p>・農林業と福祉課の担当により町内での中間就労先の可能性について、協議しました。</p>
<p>実施状況</p> <p>0ヶ所</p> <p>達成率 0%</p>	<p>【今後の取り組み】</p> <p>・個人経営ではなく、一定の就労が受け入れられるようは事業所を念頭に置きながら、就労への支援方を検討します。</p>	<p>内部検証</p> <p>【取り組み状況】</p> <p>・農林業と福祉課の担当により町内での中間就労先の可能性について、協議しました。</p>
<p>実施状況</p> <p>0ヶ所</p> <p>達成率 0%</p>	<p>【今後の取り組み】</p> <p>・個人経営ではなく、一定の就労が受け入れられるようは事業所を念頭に置きながら、就労への支援方を検討します。</p>	<p>内部検証</p> <p>【取り組み状況】</p> <p>・農林業と福祉課の担当により町内での中間就労先の可能性について、協議しました。</p>
<p>実施状況</p> <p>0ヶ所</p> <p>達成率 0%</p>	<p>【今後の取り組み】</p> <p>・個人経営ではなく、一定の就労が受け入れられるようは事業所を念頭に置きながら、就労への支援方を検討します。</p>	<p>内部検証</p> <p>【取り組み状況】</p> <p>・農林業と福祉課の担当により町内での中間就労先の可能性について、協議しました。</p>
<p>実施状況</p> <p>0ヶ所</p> <p>達成率 0%</p>	<p>【今後の取り組み】</p> <p>・個人経営ではなく、一定の就労が受け入れられるようは事業所を念頭に置きながら、就労への支援方を検討します。</p>	<p>内部検証</p> <p>【取り組み状況】</p> <p>・農林業と福祉課の担当により町内での中間就労先の可能性について、協議しました。</p>
<p>実施状況</p> <p>0ヶ所</p> <p>達成率 0%</p>	<p>【今後の取り組み】</p> <p>・個人経営ではなく、一定の就労が受け入れられるようは事業所を念頭に置きながら、就労への支援方を検討します。</p>	<p>内部検証</p> <p>【取り組み状況】</p> <p>・農林業と福祉課の担当により町内での中間就労先の可能性について、協議しました。</p>
<p>実施状況</p> <p>0ヶ所</p> <p>達成率 0%</p>	<p>【今後の取り組み】</p> <p>・個人経営ではなく、一定の就労が受け入れられるようは事業所を念頭に置きながら、就労への支援方を検討します。</p>	<p>内部検証</p> <p>【取り組み状況】</p> <p>・農林業と福祉課の担当により町内での中間就労先の可能性について、協議しました。</p>
<p>実施状況</p> <p>0ヶ所</p> <p>達成率 0%</p>	<p>【今後の取り組み】</p> <p>・個人経営ではなく、一定の就労が受け入れられるようは事業所を念頭に置きながら、就労への支援方を検討します。</p>	<p>内部検証</p> <p>【取り組み状況】</p> <p>・農林業と福祉課の担当により町内での中間就労先の可能性について、協議しました。</p>
<p>実施状況</p> <p>0ヶ所</p> <p>達成率 0%</p>	<p>【今後の取り組み】</p> <p>・個人経営ではなく、一定の就労が受け入れられるようは事業所を念頭に置きながら、就労への支援方を検討します。</p>	<p>内部検証</p> <p>【取り組み状況】</p> <p>・農林業と福祉課の担当により町内での中間就労先の可能性について、協議しました。</p>
<p>実施状況</p> <p>0ヶ所</p> <p>達成率 0%</p>	<p>【今後の取り組み】</p> <p>・個人経営ではなく、一定の就労が受け入れられるようは事業所を念頭に置きながら、就労への支援方を検討します。</p>	<p>内部検証</p> <p>【取り組み状況】</p> <p>・農林業と福祉課の担当により町内での中間就労先の可能性について、協議しました。</p>

①重要業績評価指標 (KPI)				内部検証		外部検証	
指標名	中間就労の場	達成率	目標	【取り組み状況】	【今後の取り組み】	◎検証結果	コメント
長寿通 (H26)	0ヶ所						
長寿通 (H26)	0ヶ所						
長寿通 (H26)	0ヶ所						
H28	1ヶ所	0ヶ所	0.0%	<p>② 農林課と福祉課の担当者により町内での中間就労先の可能性について、協議しました。</p> <p>③ 町内の作業所で、農業を通じて中間就労の一歩手前のステップとなる農業班での活動を行っています。このことは、遊休農地の有効活用にも繋がっています。</p>	<p>・米だけでなく、日野菜の栽培から加工までの流れを検討中です。</p> <p>・日野菜の取り組みについては、農林課やJAとの連携も検討していきます。</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり等も含め、中間就労の場を必要とするニーズの把握に努めてください。 ・人と人とのつながり(きずな)、地域の多様なニーズを連携する仕組みづくりを支援しながら中間就労につなげる仕組みづくりを努めてください。
H29	1ヶ所			<p>④ 《実施していること》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の理由により耕作できなくなった農地を作業所の農業班が耕作することで米作りを行っています。(6丁) <p>⑤ 《実施できていないこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間就労の場の確保 <p>⑥ 《実施が困難なこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本目標を達成するための状況 	<p>《基本目標》基本的方向を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業所が遊休農地の耕作を請け負うことで地域との繋がりが持てたように、引き継いで今ある資源の発掘に取り組みます。 ・関係機関と連携することで、農の中間就労の場を開拓することにも取り組んでいきます。 <p>《今後の課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間就労の場となりうる職場の開拓 	◎	
H30	2ヶ所						
H31	3ヶ所						
目標値 (H31)	3ヶ所	0ヶ所	0.0%				

(KPIの昇進し内容)

指標名	中間就労の場	指標名	指標名
昇進した理由	見直し	見直し	見直し
年度	前	後	前
H28		H28	H28
H29		H29	H29
H30		H30	H30
H31		H31	H31

【評価が極いままのことに対しての懇話会からの再コメント】

- ・評価がCからCのままです。
- ・潜在的に中間就労の場を求めておられる方は多いのではないかと感じます。
- ・関係機関と連携をとり、取り組みを活性化させるように、改善策を示してください。

【担当課からのコメント】

- ・民生委員児童委員等と連携し、ひきこもり状態にある者の早期発見に努め、訪問支援等による働きかけによって地域社会での活動を促します。
- ・農林課と連携して地域の農林業から中間就労の場を確保し、ひきこもり状態であった者が一定の外出等も可能となった段階で、就労に向けた次のステップとして活動できる取り組みを進めます。

施策検証シート

家庭での香芽なはもとより、地域のひとと人のつながり（香芽な）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安心して住み納げられるまちをめざします。また、地域の力を活かした課題解決能力を高めることで、住民の活発な自治活動をサポートし、これまでの自治活動の見直しも含め、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。

基本目標
くらしやすい地域をつながり、安心して住み納げられるまちをつくる

基本目標
○地域のひとと人のつながり（香芽な）を育むため、地域の多様なコミュニティが連携する住民主体の活動を支援します。
○人と場所と機会をつなぐ人材・資源を発掘します。
○住民主体の出会いの場をつくり、地域に暮らす人同士の「おたがいさま」の助け合い、自分の「自慢」を持ち寄る仕組みをつくり出します。
○顔の見えるつながりの中で、「困りごと」を出し合い、支えあおう。など、地域のコミュニティ活動を支援します。
○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・介護・防災などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。

施策ID
8

施策
障がい者の就労促進

施策内容
・障がいのある人が、自分らしくいきいきと暮らせるよう就労を支援します。

内部検証		外部検証	
【取り組み状況】	【今後の取り組み】	⑤検証結果	コメント
<p>①実施していること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相対支援事業所と連携して就労支援を行なっています。 《実施していること》 ・障がい者家庭は貧困につながっている場合が多いが生活保護との連携ができていません。 《実施が困難なこと》 ・一人ひとり、障がいの状況も多様でありそれぞれにあった就労の場を確保していくことが必要です。 ④本人に働く意識と意欲を促し就労につなげることが必要です。 	<p>②施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き暮らし応援センターと連携して、場を確保するとともに、就労のマッチングを進めています。 ③ 	<p>⑥検証結果</p> <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> 《基本目標、基本的方向を踏まえて》 ・地域の確保に取組めます。作業所で1日作業できる人、作業所で1日作業できない人など障がいの程度により多様な働き方をとれていますが、今後も障がいを抱えた人が安心して働けるよう努めます。 《今後の課題》 ・医療連携を充実させることが必要です。 ・生活保護との連携を深めることが必要です。 	<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある人の就労に向けて、事業所に知らせる働きかけを進めてください。また、いきいきと暮らせるように施策を進めてください。
<p>⑦重要業績評価指標 (KPI)</p> <p>指標名 働き暮らし応援センター利用登録者数</p> <p>基準値 (H26) 82人</p> <p>担当部署 福祉保健課</p> <p>目標 達成率 実績 計画 実績 達成率</p> <p>128.0%</p>	82人	105人	

① 需要業績評価指標 (KPI)				内部検証			外部検証	
指標名	計画値	実績	達成率	【取り組み状況】	【今後の取り組み】	⑥検証結果	コメント	
働き暮らし応援センター利用者数 (H28)	82人							
働き暮らし応援センター利用者数 (H29)	90人	117人	130%	<p>② 働き暮らし応援センターの職場紹介により、協力事業所（企業）を増やす取り組みを行っています。</p> <p>③ 事業所（企業）の障害者理解促進を図るとともに、雇用に関する相談や、ワークライフバランスに関する相談、フォロー体制を整えることで就労の確率に繋がっています。</p> <p>④ 《実施できていること》 ・働き暮らし応援センターや相談支援事業所と連携して就労支援を行ないました。 ・《実施できていないこと》 ・就労の一手手前となる中間就労の確保</p> <p>⑤ 《今後の課題》 ・手帳を取得していない方も働きにくさを感じ、就労継続していない状態です。このままでは「ひきこもり」になった場合、発見が困難となります。</p>	<p>《基本目標、基本的方向を踏まえて》 ・地域のつながりの中で新たな就労場所や仕事の確保に取り組めます。 ・企業で就労できる人、作業所で1日過ごす人など障がいの程度により多様な働き方を考えていきますが、今後とも障がいを抱えた人が安心して働けるよう努めます。</p> <p>《今後の課題》 ・医療連携を充実させることが必要です。 ・生活保護との連携を深めることが必要です。</p>	<p>・障がいのある人、ひきこもりの人たちが社会の助けを借りてほしいという意識改革が必要で、ひとりひとりがイキイキと働き、地域や家族とつながるよう、解決策を模索していきたく思います。に努めてください。</p>		
H29	100人							
H30	110人							
H31	120人							
目標値 (H31)	120人	117人	97.5%					

(KPIの見直し内容)

指標名	見直し理由	年度	前	後	年度	前	後
働き暮らし応援センター利用者数	見直し理由	年度	前	後	年度	前	後
見直し理由							
H28		H28			H28		
H29		H29			H29		
H30		H30			H30		
H31		H31			H31		

基本目標①	4	家庭でのきずなはもとより、地域での人と人のつながり(きずな)を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、地域のかを活かした課題解決能力を高めることで、住民の活発な自治活動を継続発展させ、これまでの自治活動の真価しめ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。
-------	---	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

基本目標	くらしやすい地域をつながり、安心して住み続けられるまちをつくる
基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○地域での人と人のつながり(きずな)を育むため、地域の多様なコミュニティが連携する住民主体の活動を支援します。 ○人と場所と機会をつなぐ、人材・資金・場所を支援します。 ○住民主体の出会いの場をつくりにより、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごと」を出し合い、支えあう。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・介護・安全なまちづくりを推進します。

実施内容	<p>9 障がい福祉サービスの充実</p> <p>・障がいのある人が地域において、自分らしくいきいきと暮らして続けられるよう、障害者グループホームの整備を行います。</p>
------	----------------------------------------------------------------------------------------

実施内容	① 重要業績評価指標 (KP1)				内部検証		外部検証	
	指標名	数値	実績	目標	【取り組み状況】	【今後の取り組み】	◎検証結果	コメント
グループホームの定員数	20人				<p>② 重慶の障がい者も利用できるグループホームを国庫の補助を受けて設置する社会福祉法人に対して、町からも支援を行いました。</p>	<p>・強度行動障害者の利用出来るグループホームの整備に取り組みます。</p>		<p>・地域において、自分らしくいきいきと暮らしていただけることにつながる。施策の推進に努めてください。</p> <p>・障がいのある人を地域において受け入れられる環境づくりを進めてください。</p>
20人	20人	100.0%			<p>③ 《実施していること》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重慶の障がい者が利用できるグループホームの整備を進めました。当っては地域の皆さんに詳しい説明を行いました。 《実施できていないこと》 ・今後のグループホーム整備に向けた用地の確保ができていません。 	<p>④ 《基本目標、基本的方向を踏まえて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強度行動障害者の利用出来るグループホームの用地の確保と早期の整備に取り組みます。 ・グループホームで地域の人にボランティアをお願いする取り組みを進めます。 <p>⑤ 《今後の課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の皆さんとの交流を深めることが必要です。 ・強度行動障害者には一人ひとりにあった静かな環境が必要であり、適切な場所の確保が課題です。 	A	

①重要業績評価指標 (KPI)				内部検証		外部検証	
指標名	グループホームの定員数	達成率	目標	【取り組み状況】	【今後の取り組み】	④検証結果	コメント
指標名 定員数 (H26) 現当部署 施設保健課	20人		目標	達成率			
H28	25人	100.0%	25人	② ・強彦行動障害の障がい者も利用できるグループホームの整備の障がい者が利用できるグループホームの整備を進めました。 ・グループホームの整備に当たっては地域の皆さんに詳しい説明を行いました。 ④ 《実施で言っていないこと》 ・新たなグループホームの設置と人材確保 ⑤ 《実施で言っていないこと》 ・グループホームのキーパーや支援員の確保が困難となっていました。	・強彦行動障害者の利用出来るグループホームの整備に取り組みます。 ・グループホームで地域の人にボランティアをお願いする取り組みを進めます。 《今後の課題》 ・地域の皆さんとの交流を深めることが必要です。 ・強彦行動障害者には一人ひとりにあった静かな環境が必要であり、適切な場所の確保が課題です。	A	・障害者差別解消法も施行されたが法律で禁止するだけでなく、地域でそれを無視していく環境をつくりだす恐れがあります。 ・子育ての段階から地域とかがわかってもらうことで社会に受け入れられていくのて、学校教育にも受け入れられるように福祉からアクションを起こし、構造的な障がいも大いに克服する必要があります。
H29	25人						
H30	28人						
H31	33人						
指標値 (H31)	33人	75.8%	25人				

(KPIの見直し内容)

指標名	グループホームの定員数	指標名	見直し理由	年度	前	後	前	後
見直し理由	見直し無し	見直し理由	栗田	年度				
年度	前	後	年度	前	後	前	後	
H28		H28	H28					
H29		H29	H29					
H30		H30	H30					
H31		H31	H31					

家庭でのきずなはもとより、地域での人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、地域の力を活かした課題解決能力を高めることで、住民の活発な自治活動や持続発展させ、これまでの自治活動の見直しも含め、地域くらしやすい地域をつなかり、安心して住み続けられるまちをつくる

基本目標
 ○地域での人と人のつながり（きずな）を育むため、地域の多様なコミュニティが連携する住民主体の活動を支援します。
 ○人と場所と機会をつなぐ、人材・資源を養育します。
 ○住民主体の出会いの場づくりにより、地域に響かす人同士の「おたがいさま」の助け合い、自分の「自覚」を持ち寄り、生きがいを持てる仕組みをつくり出します。
 ○顔の見えるつながりの中で、困りごとを出し合い、支えあおうなど、地域のコミュニティ活動を支援します。
 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。

施策
 11 犯罪・事故のまいまちづくりの推進

施策内容
 ・警察、日野町防犯自治会との連携のもと、各地区自主防犯団体、学校、PTAとの協働により、地域ぐるみで推進します。
 ・警察、東近江地区交通安全推進協議会、交通安全教育・学習を行い、交通安全意識の高揚を図るとともに、住民による、自主的な取り組みを支援します。

内部検証		外部検証																
【取り組み状況】	【今後の取り組み】	◎検証結果	コメント															
<p>①重要業績評価指標（KPI）</p> <table border="1"> <tr> <td>指標名</td> <td>犯罪認知件数</td> <td>交通安全事故発生件数</td> </tr> <tr> <td>達成値（KPI）</td> <td>32 件</td> <td>56 件</td> </tr> <tr> <td>担当部署</td> <td>市民課</td> <td>住民課</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>達成率</td> <td>達成率</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>103.5%</td> <td>103.4%</td> </tr> </table>	指標名	犯罪認知件数	交通安全事故発生件数	達成値（KPI）	32 件	56 件	担当部署	市民課	住民課	実績	達成率	達成率	目標	103.5%	103.4%	<p>② 施策</p> <p>日野町一帯で防犯交通安全情報の発信を行いました。 ・各地区自主防犯団体による防犯パトロールを実施しました。 ・地域安全活動推進大会の開催しました。 ・交通安全シルバークャラバン隊による街頭啓発を行いました。 ・警察、交通安全協会と協同で街頭啓発を実施しました。 ・保育所、幼稚園での交通安全教室を実施しました。</p>	<p>今後各地区自主防犯団体・シルバークャラバン隊などと連携を図り、地域ぐるみでの各種啓発活動など拡大を図ります。</p>	<p>・意見交換会や定例会などを通じて、顔の見える関係のもとで、住民が安心して暮らすことができるよう、情報提供と支援に努めてください。</p>
指標名	犯罪認知件数	交通安全事故発生件数																
達成値（KPI）	32 件	56 件																
担当部署	市民課	住民課																
実績	達成率	達成率																
目標	103.5%	103.4%																
<p>③ 施策</p> <p>《実施していること》 ・各地区での防犯や交通安全の活動やイベントへの協力、広報紙の発行等、地域主体で必要に応じて啓発に努めています。 ・交通安全に關連する各種団体の意見交換会や各地区自主防犯団体の定例会を開催し、課題や情報の共有、知識の向上に努めています。 《実施できていないこと》 ・特にありません。 《実施が困難なこと》 ・各地区単位で活動をしていただいているため、地域ごとで活動に対する温度差があります。</p>	<p>《基本目標、基本的方向を踏まえて》 ・各地区のニーズに即し、即時性のある活動を行う必要がります。 《今後の課題》 ・地域の安全を地域で守っていただけるよう、顔や連絡、交通安全協会と連携を図り各団体へ情報提供できる場を設ける必要がります。</p>	<p>A</p>																

①重要業績評価指標 (KPI)				内部検証				外部検証			
指標名	犯罪認知件数	達成率	達成数	目標	実績	達成率	達成数	【取組の状況】	【今後の取組み】	◎検証結果	コメント
基準値 (H26)	32 件		56 件	住民啓蒙	達成			<ul style="list-style-type: none"> ・日野の一、二、ホームページを活用し、防犯、交通安全の情報提供を行いました。 ・各地区自主防犯団、警察、学校、県と合同で防犯啓蒙活動を実施しました。(万引き防止、自転車盗防止等) ・各地区自主防犯団による防犯パトロールを実施しました。 ・各地区自主防犯団が継続して活動していただけたことにより日野町防犯自治会より助成を行いました。 ・警察と協働で老人クラブや幼稚園で交通安全教室を実施しました。 ・東近江警察署と交通事故や犯罪が多発した際に警戒情報を発信するための協定を締結しました。 	<p>今後も各地区自主防犯団・シルバークラブハン隊など各種団体と連携を図り、定期大会や学習会などを開催し、顔の見える関係で地域ぐるみでの各種啓蒙活動など拡大・援助を図ります。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的方向を踏まえ、助成金や資材を出すことでの支援という形から、それぞれの地域で自分たちで活動をやっていきけるようになるための支援となるように、支援の形を自着していただく。 ・高齢化に伴い住民主体の活動が困難になってくることに備え、次の担い手を確保する仕組みづくりを確保してください。
H28	28 件		50 件	住民啓蒙	達成			<ul style="list-style-type: none"> ② 《実施していること》 ・防犯や交通安全の定期大会に自主防犯団体や老人クラブの方に参加し意見交換や情報共有を行いました。 ・地域住民が主体となつて防犯活動や交通安全活動を実施できるよう、活動に対する助成金や資材の提供を行っています。 	<p>《基本目標、基本的方向を踏まえで》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地区のニーズに応え、即時性のある活動を行う必要があります。 <p>《今後の課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構成団体の加入率や活動の頻度が少ないので高齢化に伴い住民主体による活動が困難になつてくることが想定されます。新規団体の加入が今後の課題として考えられます。 	A	
H29	27 件		48 件	住民啓蒙	達成						
H30	26 件		46 件	住民啓蒙	達成						
H31	25 件		45 件	住民啓蒙	達成						
基準値 (H31)	25 件	84.0%	29 件	住民啓蒙	達成	93.3%	48 件				

(KPIの見直し内容)

指標名	犯罪認知件数	達成率	達成数	目標	実績	達成率	達成数
見直し理由	見直し無し		見直し無し	前	後		
年度	前	後	前	後	前	後	後
H28			H28		H28		
H29			H29		H29		
H30			H30		H30		
H31			H31		H31		

基本目標	4	家庭でのきずなはもとより、地域での人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安心して住み続けられるまちをめざします。また、地域の力を活かした課題解決能力を高めて、住民の活発な自治活動を継続発展させ、これまでの自治活動の見直しも含め、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。
基本目標	12	くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる ○地域での人と人のつながり（きずな）を育むため、地域の多様なコミュニティが連携する住民主体の活動を支援します。 ○人と場所と機会をつなぐ、人材・資金・場所を共創します。 ○住民主体の出会いの場づくりにより、地域に暮らす人同士の助け合い、自分の「自覚」を持ち寄り、自分のコミュニティ活動を支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごと」を出し合い、支えあう。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。
実施内容	① 消防団の重要性・必要性を啓発し、地元自治会・企業等との連携強化により、団員の確保を図ります。（団員定数185人） ② 消防団の重要性・必要性を啓発し、地元自治会・企業等との理解と協力により、団員の確保を図ります。（団員定数185人） ③ 消防団の重要性・必要性を啓発し、地元自治会・企業等との理解と協力により、団員の確保を図ります。（団員定数185人） ④ 消防団の重要性・必要性を啓発し、地元自治会・企業等との理解と協力により、団員の確保を図ります。（団員定数185人） ⑤ 消防団の重要性・必要性を啓発し、地元自治会・企業等との理解と協力により、団員の確保を図ります。（団員定数185人）	
指標名	消防団員数	①重要業績評価指標（KPI）
数値	185人	
現状	185人	
目標	185人	
達成率	100.0%	
達成	達成	
取組状況	・消防団の重要性・必要性を啓発し、地元自治会・企業等との理解と協力により、団員の確保を図ります。（団員定数185人） ・消防団の重要性・必要性を啓発し、地元自治会・企業等との理解と協力により、団員の確保を図ります。（団員定数185人） ・消防団の重要性・必要性を啓発し、地元自治会・企業等との理解と協力により、団員の確保を図ります。（団員定数185人） ・消防団の重要性・必要性を啓発し、地元自治会・企業等との理解と協力により、団員の確保を図ります。（団員定数185人）	【今後の取組み】 ・引き続き、活動等を通じて消防団の重要性・必要性の啓発に努め、地元自治会や企業等と協力して、団員の確保を図ります。（団員定数185人）
検証結果	A	・消防団員の確保が難しくなっている理由の分析を行ない、現状にあった消防団の運営について検討を進めてください。また、団員の一つひとつを確保するための活動について、通達をいただくこと、通達をいただく内容となるよう努めてください。 ・消防団員として、自らが安心・安全なまちづくりに貢献していくという気風を醸成するため、地産地消などを検討してください。
外部検証	コメント	

①重要業績評価指標 (KPI)				内部検証				外部検証	
指標名	数値	達成率	目標	実績	差異	理由	コメント	⑥検証結果	コメント
消防団員数 (H26)	185人								
目標									
H28	185人	100.0%	185人	185人					
H29	185人								
H30	185人								
H31	185人								
目標値 (H31)	185人	100.0%	185人	185人					
【取り組み状況】				【今後の取り組み】					
<p>・消防団の重要性・必要性を啓発し、地元自治会・企業等との理解と協力により、団員の確保を図りました。(団員定数185人)</p> <p>② ③</p>				<p>・引き続き、活動等を通して消防団の重要性・必要性の啓発に努め、地元自治会や企業等と協力して、団員の確保を図ります。(団員定数185人)</p> <p>④</p> <p>《実施していること》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の活動やイベントへの臨み、広報紙の発行等、消防団の重要性・必要性の啓発に努めています。 ・幹部等による定期的な会議を開催し、課題や消防団の推進に努めています。 ・消防団活動に対する理解の促進を図るため、平成28年度から「滋賀県消防団同様の仕事」を《実施できていないこと》 ・ご理解やご協力をお願いいたします。 ・「消防団の同様の仕事」は、地域が困難なことであります。 ・地域間の年次補償のバラつきを解消することを目指してまいります。 <p>⑤</p> <p>《今後の課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防団の重要性・必要性の認識をさらに向上させる必要があります。 ・物理的に団員の確保が難しい地域(地区)に対し、柔軟な対応(地域間の団員の融通のし易い等)の検討を要する必要があると見られます。 ・「滋賀県消防団同様の仕事」に日野町では85名が協力いただいておりますが、今後を展望していただくと不足懸念があります。 					
<p>《基本目標、基本的方向を踏まえて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き団員定数185人を確保できること、地元自治会(企業等)で消防団員自らが環境等を説明すること、 ・平時の活動や防災訓練、町や地区へのイベントへの参加などを通じて、消防団活動への理解を深め、公助としての役割を果たす。 ・幹部会、協議会や広報紙を発行し、活動の推進とPRを図ること、 ・互いに顔が見える関係を築き、安心・安全の向上に努めます。 				<p>《今後の課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防団の重要性・必要性の認識をさらに向上させる必要があります。 ・物理的に団員の確保が難しい地域(地区)に対し、柔軟な対応(地域間の団員の融通のし易い等)の検討を要する必要があると見られます。 ・「滋賀県消防団同様の仕事」に日野町では85名が協力いただいておりますが、今後を展望していただくと不足懸念があります。 					

(KPIの異動し内容)

指標名	指標名	指標名	指標名	指標名	指標名	指標名	指標名		
指標名	消防団員数	見直し理由	見直しした理由	年度	前	後	年度	前	後
見直し理由	見直し無し	見直し無し	見直し無し	H28			H28		
年度	前	後	前	後	前	後	前	後	後
H28				H28			H28		
H29				H29			H29		
H30				H30			H30		
H31				H31			H31		

①重要業績評価指標 (K.P. I)				内部検証		外部検証	
指標名	数値	達成率	目標	【取り組み状況】	【今後の取り組み】	◎検証結果	コメント
自主防災組織数	8 (人)		4 (人)				
基礎情報 (H26)							
担当部署	総務課	達成率	目標				
H28	11 (人)	100.0%	14 (人)	14 (人)	100.0%		
H29	14 (人)		18 (人)				
H30	17 (人)		20 (人)				
H31	20 (人)		20 (人)				
目標値 (H31)	20 (人)	55.0%	20 (人)	14 (人)	70.0%		

【K.P.の異動し内容】	
指標名	指標名
異動し理由	異動し理由
年度	年度
前	後
H28	H28
H29	H29
H30	H30
H31	H31

【評価が下がったことに対する懇話会からの再コメント】	
・評価が下がったことに対する懇話会からの再コメント	・評価が下がったことに対する懇話会からの再コメント
・市民の防災意識を高めるという観点から、町の防災力を総合的に高める施策を検討してください。	・市民の防災意識を高めるという観点から、町の防災力を総合的に高める施策を検討してください。

【担当課からのコメント】

・災害発生時の備中町、美作町の公助には感謝が尽きません。そのため必要なのが、自らの命は自らを守り、そして、地域において近隣の互いに助け合おうという意識を醸成することです。町民一人ひとりが、自分たちの方の地域は自分たちで守るということという共通の考えのもとに、地域単位の自主防災活動を展開していただくのが、「自主防災組織」で、この自主防災組織を推進していただくことこそが町の防災力を高めることと考えます。

・町民の防災意識を高めるという観点から、町の防災力を総合的に高める施策を検討してください。

・平成29年3月に完成した日野町防災センターにおいて開催する防災講座（研修）を通して、自主防災組織の中心となっていた広く人材を育成します。

①重要業績評価指標 (KPI)				内部検証		外部検証		
指標名	町営バス年間利用者数	目標	実績	達成率	【取組状況】	【今後の取組み】	◎検証結果	コメント
指標値 (H26)	59,716 人							
相当部署	企画課	目標	実績	達成率				
H28	59,750 人		55,074 人	92.2%	<p>② 動感調査の実施により利用者や運行状況の把握に努めました。</p> <p>③ 利用促進を図るため、蒲生氏郷公のデザインを用いたラッピングバスの運行や、丘崎まつりの集客場において、バス利用の啓発に努めました。</p>	<p>・町営路線バスを含めた公共交通が利用しやすいものとなるよう運行事業等と連携して取組を進めます。</p>		<p>・公共交通への理解を高め、住民自身がその必要性を再認識できるように働きかけ作りを努めてください。</p>
H29	59,800 人				<p>④ 《実施していること》</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共交通を利用することで、公共交通を維持し守れることや運行経費等の状況を公表するなど利用促進のPRに努めています。 《実施できていないこと》 限られた総額の中で、多様な利用者のニーズに合った経路調整や低床バス車両の更新等ができません。また、住民へ公共交通の上手な利用法の重点が打たれてきていません。 ⑤ 《実施が困難なこと》 自家用車での移動に慣れていることにより、同等の便利性を求められます。現在の公共交通は不便という意識が強く、公共交通維持で最も重要な利用層の高齢者が抱えていない。 	<p>《基本目標、基本的方向を踏まえて》</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共交通の維持に際する現状や課題などを公表することにも、公共交通に関する利用者からこの公共交通の大切さなどを紹介することにより、住民自身が考えその大切さを認識する機会を増やしていきます。 <p>《今後の課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 住民自身が公共交通について考え、その大切さを手でもらうことで、公共交通がいかにか安全・安心な暮らしと結びついているかを、しっかりと認識してもらうことが必要です。 	B	
H30	59,900 人							
H31	60,000 人							
目標値 (H31)	60,000 人		55,074 人	91.8%				

(KPIの昇進し内容)

指標名	町営バス年間利用者数	指標名	指標名	
昇進した理由	見直し無し	見直し理由	見直し理由	
年度	前	後	前	後
H28			H28	
H29			H29	
H30			H30	
H31			H31	

6. 地方創生交付金事業の検証

No	① 交付対象事業の名称	② 交付金の種類	③ 実績額 単位:円	④ 本事業における重要業績評価指標(KPI)					⑤ 本事業終了後における実績値			⑥ 外部有識者からの評価 事業の計画	⑦ 実績値を踏まえた事業の今後について 今後の方針
				指標	指標値	単位	目標年月	実績値	事業効果	見	理由		
1	三方よし！近江日野交流・移住・定住促進事業	加速化	40,521,242	指標①	観光入込客数(年間) 過去3年平均	629,500	人	H29.3	595,400	総合戦略のKPI達成に有効であった	各種事業の更なる展開により、総合的に日野まちなか定期観光交流事業が促進され、移住・定住につながる事業展開を図る。		
				指標②	転入者数(住民基本台帳)過去3年平均	690	人	H29.3	713				
				指標③					地方創生に効果があった				
				指標④									
				指標⑤									
2	獣害対策と伝統料理「日野菜」振興による地域資源活用事業	加速化	34,368,222	指標①	畜産関係に取組む業者	21	業者	H29.3	26	総合戦略のKPI達成に有効であった	獣害対策として、モデル事業の実施や二ホンザルのモニタリング調査などの結果をうけ、今後の事業展開が図れた。日野菜の生産振興にも非常に効果があった。		
				指標②	獣肉のレストラン・ホテルの取引先	15	社	H29.3	18				
				指標③	日野菜出荷量	46	t	H29.3	37				
				指標④	日野菜生産面積	6.5	ha	H29.3	5				
				指標⑤									
3	恐ろ列車でいく！草津線沿線の魅力を活かした公共交通利用促進・地域活性化事業	加速化	4,183,970	指標①	近江鉄道日野駅の利用率	180,000	人	H29.3	164,704	総合戦略のKPI達成に有効であった	公共交通利用促進や地域活性化に非常に効果があった。		
				指標②									
				指標③									
				指標④									
				指標⑤									
4	近江に根ざして120年「近江鉄道」沿線魅力再発見・創出事業	加速化	1,801,212	指標①	観光入込客数(年間) 過去3年平均	629,500	人	H29.3	595,400	総合戦略のKPI達成に有効であった	近江鉄道日野駅舎の環境整備に有効であった。		
				指標②									
				指標③									
				指標④									
				指標⑤									
5	THE近江・魅力満載プロジェクト	推進(先駆タイプ)	510,000	指標①						近江鉄道日野駅舎の活用し、更なる観光客の流入を狙う。			
				指標②									
				指標③									
				指標④									
				指標⑤									
6	キラリ日野ライフ定住移住促進事業	推進(後継打倒タイプ)	5,000,400	指標①	定住・移住者数	13	人	H29.3	21	総合戦略のKPI達成に有効であった	ホームページを利用したニーズ調査により、定住・移住促進に向け、事業が効果的であった。		
				指標②	人と人(複数の地域コミュニティをつなぐ)の創造	5	ヶ所	H29.3	5				
				指標③									
				指標④									
				指標⑤									

広域連携事業のため、町独自の重要業績評価指標(KPI)が無い事業です。

7. 検証のまとめ

1) 昨年度の検証と比較して

今年度の検証は総合戦略2年目の検証となることから、まず、昨年度との評価の違いについてまとめた。評価がさがった施策、評価が低いままの施策に対しては、改めて懇話会委員の意見を付けて、担当課からのコメントをもらう形をとった。再コメントについては、このページにも掲載した。

○昨年度より評価の上がった施策

- B→A 1-2 地域内経済循環の推進（商工観光課）
- 1-4 魅力ある商店づくりの促進（商工観光課）
- 1-7 日野菜のブランド化の促進（農林課）
- 2-4 日野の「たから」の伝承促進（生涯学習課）
- 2-6 生涯学習の機会の充実（生涯学習課）
- 2-11 スポーツによる交流の促進（生涯学習課）
- 3-2 産み育てやすい環境の充実（福祉保健課）
- 3-4 保育所の整備（子ども支援課）
- 3-13 学童保育所の整備（子ども支援課）
- C→B 3-7 ファミリーサポートセンターの整備（子ども支援課）
- D→C 2-9 空き地等を活用した定住促進（企画振興課）
- C→A 2-1 体験型観光の推進（商工観光課）
- 3-10 障がい児の支援の充実（子ども支援課）
- 4-5 異分野・多世代交流の創出（生涯学習課）

○昨年度より評価の下がった施策

A→B 2-2 観光受入体制の整備（商工観光課）

【評価が下がったことに対する懇話会からの再コメント】

- ・イベントをやることのみには終わっていませんか。
- ・移住につながる情報発信ができていないのではないですか。
- ・基本目標「出会いと発見で人の流れを作る」ことを意識して、移住・定住に結びつく今後の取り組みを示して下さい。

【担当課からのコメント】

- ・イベントの継続により、町民の日野町への愛着が更に深まるよう取り組みます。
- ・日野駅の観光案内交流施設等の整備を通して、交流人口の増加、住民および来訪者の交流を促進し、出会いと発見で人の流れを創出できる事業の展開に取り組みます。

A→B 3-14 児童・生徒の自主的学習支援の推進（学校教育課）

【評価が下がったことに対する懇話会からの再コメント】

- ・KPIの達成率が下がったためのものですが、全ての子どもを対象に取り組みを進めることを視野に入れ、基本目標・基本的方向を踏まえての今後の改善計画について見込みを示して下さい。

【担当課からのコメント】

- ・全ての子どもの学習補償の観点から、今後の施策を検討していきます。

- ・実施する場所、指導者の確保、財源の確保等、町としての子育て支援の視点での連携した取り組みを検討します。

A→B 4-1 進取のまちの推進（企画振興課）

【評価が下がったことに対する懇話会からの再コメント】

- ・出前講座で役場から教えに行く時代は終わったのではないですか。
- ・受け身ではなく住民自らが自分たちに何が必要かを考えさせるようにもっていくことが必要です。どのような取り組みができるか検討してください。

【担当課からのコメント】

- ・住民の活発な自治活動を持続発展させられるよう、地域課題について住民自らが発見し、学び、取り組みに繋げていけるような出前講座の内容にシフトしていくことを検討します。

A→B 4-13 自主防災組織の育成（総務課）

【評価が下がったことに対する懇話会からの再コメント】

- ・住民の防災意識を高めるという視点から、町の防災力を総合的に高める施策を検討してください。

【担当課からのコメント】

- ・災害発生時の国や県、また町の公助には限界があります。そのため必要なのが、自らの命は自らが守り、そして、地域において近隣がお互いに助け合う共助であると考えます。地域住民一人ひとりが、「自分たちの地域は自分たちで守る」という共助の考えのもとに、地域単位の自主防災活動を行っていただくのが、「自主防災組織」で、この自主防災組織を増やしていくことが町の防災力を高めると考えます。
- ・町内会に組織されていない人（自治会未加入者）に対しても「自らの安全は、自らが守る」という意識を持っていただき、防災への意識啓発を進めることが必要と考えます。
- ・平成29年3月に完成した日野町防災センターにおいて開催する防災講座（研修）を通して、自主防災組織の中心となっていただく人材を育成します。

B→C 1-3 企業誘致と企業・異業種間の交流促進（商工観光課）

【評価が下がったことに対する懇話会からの再コメント】

- ・「住民主体」、「地域内経済循環」、「地域資源の活用」、この3つのキーワードの視点をもって取り組みをしてください。
- ・地元を育てる企業誘致という視点で検討し、取り組みを示してください。

【担当課からのコメント】

- ・若者の定住やIUターンの施策と連携し、どのような企業、職種が求められるのかを調査し、町を育てる企業誘致につながるよう取り組みます。
- ・日野町原産で、町のたからである「日野菜」を活用し、地域資源による地域内経済の活性化のため、農産物加工施設整備により雇用の拡大につながるよう取り組みます。

【懇話会から再々コメント】

- ・地域内経済循環が「日野菜」だけのように捉えられています。「日野菜」はもとより広義で捉

え、施策の展開につなげてください。

A→C 3-15 奨学金制度の充実（学校教育課）

【評価が下がったことに対する懇話会からの再コメント】

- ・「貸付」ではなく、在学後に定住することで返済金相当分を給付する等、他府県の事例も参考に県と連携した新しい制度の構想を検討してください。

【担当課からのコメント】

- ・卒業後に日野町に定住することを条件に、給付とする奨学金については十分な議論と検証が必要と考えます。

○評価が低いままの施策

C→C 1-9 若者等の就職相談件数（商工観光課）

【評価が低いままのことに対する懇話会からの再コメント】

- ・H29年度からは、KPIの目標設定も上がってきます。
- ・町のキャリアセンターとしての役割を担うことが求められています。
- ・若者にどうアピールしてどうつながりを作っていくのか、考えを示してください。

【担当課からのコメント】

- ・若者の定住、I.U.J ターン施策推進のため、移住者がどのような企業、職種を求めているのかを調査し、企業、職種の求人との調整を図るキャリアセンター整備に向け、県とも連携しながら窓口整備に向けた調査研究を進めます。また、若者に対しては、おうみ若者未来サポートセンター等と連携し、ダイレクトメール等により情報の発信に取り組みます。

C→C 3-8 交流できる場の整備数（関係課）

【評価が低いままのことに対する懇話会から再コメント】

- ・切れ目のない支援を作るサイクルが必要です。どのように仕組みづくりに取り組むのか、改善案を示して下さい。

【担当課からのコメント】

- ・地域のつながりを深める中で、サポートを受けた人が、後にサポートをする側になっていくようなサイクルを作り、交流の中で住民ニーズを充足し合い、地域の中で切れ目のない支援ができる仕組みづくりに向けて関係課で連携をとり具体的検討に入ります。

【懇話会から再々コメント】

- ・お年寄りも出にくい人も集まる場所にしていくという視点をもってください。

C→C 4-4 コミュニティビジネスの創出（企画振興課）

【評価が低いままのことに対する懇話会からの再コメント】

- ・H29年度からは、KPIの目標も上がってきます。
- ・具体的な取り組み方法を示してください。

【担当課からのコメント】

- ・コミュニティビジネスを創業しようとする人材をバックアップする仕組みについても検討を

進めます。

- ・地域自治の力を高められる元となる、コミュニティビジネスの創出に向け、継続的に意識を高めていくため、関係課と連携し取り組みを進めます。

C→C 4-7 中間就労の場（福祉保健課）

【評価が低いままのことに對しての懇話会からの再コメント】

- ・潜在的に中間就労の場を求めておられる方は多いのではないかと思います。
- ・関係課と連携をとり、取り組みを活性化させるように、改善策を示してください。

【担当課からのコメント】

- ・民生委員児童委員等と連携し、ひきこもり状態にある者の早期発見に努め、訪問支援等による働きかけによって地域社会での活動を促します。
- ・農林課と連携して地域の農林業から中間就労の場を発掘し、ひきこもり状態であった者が一定の外出等も可能となった段階で、就労に向けた次のステップとして活動できる取り組みを進めます。

【懇話会から再々コメント】

- ・中間就労を必要としているのは、ひきこもりの人だけに限定はできません。潜在的なニーズの把握に努め、関係課で連携して取り組みにつなげてください。

2) 量的（KPI）検証のまとめ

全ての施策に設定されている重要業績評価指標（KPI）について、町が定めている年度別の目標値に対する実績値の達成率について、検証を行い5段階評価として集計を行なった。

検証結果については、次のとおりである。

KPIの検証結果	重要業績評価指標（KPI）の達成度	施策数	比率
量S	100%～90%以上	38施策	76.0%
量A	90%未満～70%以上	2施策	4.0%
量B	70%未満～50%以上	3施策	6.0%
量C	50%未満～30%以上	2施策	4.0%
量D	30%未満～0%以上	5施策	10.0%

（基本目標別量的(KPI)検証結果 P.10 参照）

検証した施策の中で最も多いのが、量S（達成度100%～90%以上）で38施策（76.0%）、次いで、量D（達成度30%未満～0%以上）が5施策（10.0%）という結果になっている。

量Sの割合が高い要因は、総合戦略の計画期間に関わるものと考えられる。計画期間とは、平成27年度から平成31年度の5年間であり、町が定める年度別目標値については、平成31年度の計画期間最終年度に向けて、計画的に目標値が定められている。今年度はその計画の2年目にあたり、達成度は昨年に引き続き高く保たれている。

次に、量Dの割合が多くなっているが、このことは、総合戦略を策定した平成27年度からの新し

い施策に関するもので、5年間の計画期間中に施策を軌道に乗せて取り組んでいくための目標値となっている。昨年度から取り組みを始め、未だ計画段階の施策、もしくは検討のみの段階である施策で、実績値が無いものも見受けられることから、量Dと検証されたものが2番目に多くなったと考えられる。

これらのことから、平成29年度以降は、段階的に高くなるKPI目標値を見据えた施策の取り組みと、未だ計画段階の施策、もしくは検討のみの段階である施策の加速的な事業推進が求められる。

3) 質的（取組内容）検証のまとめ

全ての施策に設定されている重要業績評価指標（KPI）だけでは計れない、取り組み内容の質的な充実について、検証を行い5段階評価として集計を行なった。

検証結果については、次のとおりである。

質的検証結果	質的検証結果の内容	施策数	比率
質S	内容を十分に理解し、取り組みにより達成している	0 施策	0.0%
質A	内容を理解した取り組みを実施し、課題解決や達成に向けた取り組みができています。	0 施策	0.0%
質B	内容を理解し、取り組みができています	29 施策	58.0%
質C	概ね内容を踏まえているが、取り組みが不十分	21 施策	42.0%
質D	あまり内容を踏まえて取り組めていない	0 施策	0.0%

（基本目標別質的（取組内容）検証結果 P.12参照）

検証した施策の中で最も多いのが、質B（内容を理解し、取り組みができています）で29施策（58.0%）、次いで、質C（概ね内容を踏まえているが、取り組みが不十分）が21施策（42.0%）という結果になっている。

質Bの割合が高い要因は、施策の内容、基本目標および基本的方向の趣旨に沿って、計画期間2年目として、施策の取り組みを順当に進めたことによるものと考えられる。

次に、質Cが高い割合になっていることについては、概ね施策の内容に沿って取り組んでいるものの、めざす姿である基本目標および基本的方向を踏まえ、総合戦略を構成する施策であるという観点からの取り組みが弱いものが見受けられたことから、このような結果になったと考えられる。

質Dについては、昨年度は2施策あったが、今年度はなくなったので、それぞれ総合戦略を意識して取り組みをすすめられた結果と言える。

これらのことから、平成29年度以降の施策の推進にあっては、ただ単に施策を展開するだけでなく、総合戦略に掲げる基本目標および基本的方向を十分に理解し、めざす姿を実現するための施策の展開が一層求められる。

4) 基本目標別のまとめ

○基本目標（1）まちのたからで雇用を創る

（基本目標（1）検証結果 P.14参照）

検証結果では、10 施策中で最も多いのが、A（優れている）で6 施策（60.0%）、次いで、B

(実施できている)が2施策(20.0%)という結果になっている。

A(優れている)とされた施策は、昨年度もA評価の「農業経営体の育成」、「地元野菜生産者の担い手育成」および「獣肉の利活用を促進」に加え「地域内経済循環の推進」「魅力ある商店づくりの促進」「日野菜のブランド化の促進」で、検証委員からは、町の景観を守るリフォーム助成についてや農業後継者育成について、また野菜の商品化にむけた技術的指導などについて意見があった。

一方、C(工夫が必要)とされた施策は、昨年度は1施策だけであったが、今年度は、「若者等の就職相談窓口の整備」と「企業誘致と企業・異業種間の交流促進」の2施策になった。検証委員からは発想の転換をもって企業誘致に取り組むことや、地元企業の情報発信も含め、若者等と地元企業が出会える取り組み等について意見があった。

昨年度にひきつづき、基本目標と基本的方向を踏まえ、地域資源を活かし、住民主体の地域内経済循環の活性化に向けて、コミュニティビジネスの起業への取り組みが求められる。

○基本目標(2) 出会いと発見で人の流れを作る (基本目標(2) 検証結果P.15 参照)

検証結果では、11 施策中で最も多いのが、A(優れている)で7施策(63.6%)、次いで、B(実施できている)が3施策(27.2%)という結果になっている。

A(優れている)とされた施策は、「体験型観光の推進」「日野の「たから」情報発信の推進」、「生涯学習の機会の充実」、「定住支援相談窓口の整備」、「空き家を活用した定住促進」、「多文化共生の推進」および「スポーツによる交流の促進」で、検証委員からは、交流人口拡大のため、各種体験活動を活発化させる町の関わりを広げていくことや、跡継ぎをこの町で育てるという視点をもつこと、町への愛着を芽生えさせ、定住を促進する事業を行うこと、将来の移住につながる田舎体験となる取り組み等について意見があった。

これらの意見を踏まえたうえで、移住・定住を意識した観光受入体制の整備と生涯学習機会の充実等に取り組むことが求められる。

一方、C(工夫が必要)とされた施策は、「空き地等を活用した定住促進」で、検証委員からは、地域に愛着を持たせることから定住を増やし、空き地等の活用につながる取り組み等について意見が出された。

基本目標と基本的方向を踏まえては、近江日野商人ふるさと館・近江日野商人館・まちかど感応館の3館連携を進め、まちの「たから」を活かし、観光客や町外の住人が日野町に関心を持ち、町民との交流から将来の移住につながるような仕組みづくりが求められている。

○基本目標(3) 結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる

(基本目標(3) 検証結果P.16 参照)

検証結果では、15 施策中で最も多いのが、B(実施できている)で7施策(46.6%)、次いで、A(優れている)が6施策(40%)という結果になっている。

A(優れている)とされた施策は、「産み育てやすい環境の充実」、「保育所の整備」、「福祉医療制度の実施」、「障がい児の支援の充実」、「子ども読書活動推進」および「学童保育所の整備」で、検証委員からは、妊娠期からのもれのないフォローができるしくみづくりについてや、地域住民で保育所も支えるという視点をもつことについて、障がいのある子どもがいっしょにやって

いけること(統合教育)について、また学童保育所の利用者を将来の支援者につなげる仕組みづくり等について意見があった。

一方、C(工夫が必要)とされた施策は、「交流できる場の充実」および「奨学金制度の充実」で、再度ニーズの把握に努め、地域のつながりが深まる中で切れ目のない支援となるように、また給付型の奨学金を制度化することが求められているという意見が出された。

基本目標の達成に向けて、地域のつながりを深めていく中で、子育てでサポートを受けた人が、後にサポートをする側になっていくようなサイクルを作り、交流の中で住民ニーズを充足し合えるような、切れ目のない支援ができる仕組みづくりが求められている。

○基本目標(4) くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる

(基本目標(4) 検証結果 P.17 参照)

検証結果では、14 施策中で最も多いのが、A(優れている)で7施策(50%)、次いで、B(実施できている)が5施策(35.7%)という結果になっている。

A(優れている)とされた施策は、「異文化・多世代交流の創出」、「学びの機会の充実」、「障がい者の就労促進」、「障がい福祉サービスの充実」、「介護予防の促進・高齢者の自主的な活動支援」、「犯罪・事故のないまちづくりの推進」および「消防団活動の充実」で、検証委員からは、地域の行事の中で、中学生や高校生を含む子ども達を地域の主役にしていくような発想をもつことについてや、公民館での活動がどう地域の課題解決に結びつくのかを考え直すこと、また住民主体の安全で安心して住み続けられるまちづくりをするために、地域の防災力の向上と消防団の活動のあり方について意見が出された。

一方、C(工夫が必要)とされた施策は、「コミュニティビジネスの創出」および「農林業を活かした中間就労の創出」で、検証委員からはコミュニティビジネスの創出に向け継続的に意識を高めていくこと、中間就労を必要とする人のニーズの把握について意見が出され、これらの施策を早急に進めることが求められている。

基本目標の達成に向けて、これからの地域のあり方を住民自らが見出し、人と人のつながりを育む中で、それぞれの地域で核となる人材の発掘と、地域に暮らす人同士の「おたがいさま」の助け合い、生きがいをもてる仕組みづくりに取り組むことが必要である。

5) まとめ

ここまで総合戦略の検証を行ってきました。本報告書を手に取り、お読みくださり、ありがとうございます。お読みになられた皆さんはどのような感想を持たれましたか？

本報告書は、50本の施策について、「量的検証」と「質的検証」を行い、その合計点数を検証結果としてきました。また、四つの基本目標については、50本の施策の検証結果を踏まえて、総合的な評価を行ってきました。本報告書の検証結果では、「数値化」されている点数に注目されたのではないかと推察します。そこで、報告書の最後に、総合計画懇話会の検証過程と検証結果から見えてきたこと、検証を今後活かすための若干のコメントを記して、まとめとしたいと思います。

評価方法について

本報告書の検証結果は、総合戦略に関わる施策がどの程度成果を上げてきているのかを総合的に評価するために、量的検証項目として重要業績評価指標 (KPI) (以下「KPI」とする) の達成度の評価、その施策の中身がどの程度充実したものであったのかを評価する質的検証項目として4項目の評価を行い、その合計得点を持って総合評価を行うという少々込み入った評価方法をとった。この評価は、「外形的な達成度」とどまらず、「質的・内容的な充実度」を検証していこうという工夫である。一般的に、KPIを設定するとどうしてもKPIの達成度に目が行きがちになるが、施策の質的・内容的な充実を図り、効果的な施策の展開を進めて欲しいので、この様な評価方法を取り入れた。

具体的には、KPIの達成度で測る量的検証(満点10点)、四つの検証項目から質的検証(1項目5点の4項目、満点20点)の二つの検証視点で行い、その量的検証と質的検証の検証点数の合計点数によって、5段階の「検証結果」とした。量的検証10点と質的検証20点と配点し、質的検証の配点を2倍としている。しかし、評価結果を見てみると検証初年度の昨年と同様に、KPIの達成度が高ければ、検証結果も高い評価を得られることがわかる。質的検証で、内容的に難があった施策でも、KPIがハイスコアであれば、そちらに助けられて高い評価を受けている施策もある。また、そもそも量的と質的という異質な検証結果の点数を合計して、総合評価を行っている点も注意が必要だ。

留意すべきこと-評価結果からさらなる改善に向けて-

こうした評価方法の特性からさらなる改善を図るにあたっては、二つの留意点が挙げられる。第一に、KPIの設定の適切さである。KPIの達成度が高かった施策については、「数値目標の数値設定が甘過ぎなかっただろうか?」と、主要な担当部局において数値目標の数値設定の適切性について検討する必要があると考えられる。また、「そもそもこの施策のアウトカム指標として適切な指標の設定だったのか?」と、指標の設定の適切性に立ち戻って検討することも、今後の施策の量的評価をより適切にするためにも、また、施策の質的な工夫を進める政策思考の改善のためにも、良い場合があるかもしれないので、主要担当部局で一度検討されることを薦めたい。

第二の留意点は、「量的と質的という異質な検証結果の点数を合計して、総合評価を行っている点」に関連した留意点である。合計点数による検証結果は、18ページにあるように、A(優れている)が26施策の52%、B(実施できている)が17施策の34%、C(工夫が必要)が7施策の14%となっており、A(優れている)、B(実施できている)を合わせて、86%を占めている。A(優れている)、B(実施できている)と評価された施策の比率が高いが、この高さに油断することなく、この「検証結果」となった要因(量的検証と質的検証の検証得点の状況)を注意深くみていく必要が

ある。総合戦略の計画期間中、この検証を継続していくのだが、「検証結果」の A 及び B といった評価を受ける施策が多いというだけでなく、毎年評価を経るに従って、施策の質的評価が年々高まってきているのかどうかを注意深くみていく必要がある。検証結果が、A（優れている）の評価であった場合でも、その量的、質的な両面での改善が着実に進んでいるのかを注意深くみていく必要がある。KPI の評価に支えられた「良い評価」から質的にも改善した「良い評価」となるような施策の質的内容的な改善が図られることが重要だ。そうした改善結果として、総合の S（目標を達成している）に到達することができるのではなかろうか。

自己点検・政策改善プロセスを埋め込んだ評価方法

本報告書の検証方法は、総合戦略に関わる施策を自己点検しながらその政策内容を改善していく「自己点検・政策改善プロセス」を埋め込んだものとなっている。この評価方法は、「質的・内容的な充実」を検証できるように工夫をしている。4 ページに示しているように、質的検証にあたっては、「取り組み状況」と「今後の取り組み」を「施策の内容を踏まえて」と「基本目標と基本的方向性を踏まえて」の二つの視点から自己点検をしてもらっている。施策内容からの自己点検に加えて、基本目標・基本的方向性から自己点検を行うという二段構えで、施策内容の自己点検を行うことで、施策の改善の可能性について政策担当者に考えてもらえることを期待して、この評価方法を設計した。この評価方法を活用することで、政策立案能力の引き上げを図ることを企図している。

従いまして、この自己点検プロセスをテコに、施策を「（総合戦略の）基本目標と基本的方向性を踏まえて」一層の改善を進めることが求められている。とりわけ、各施策の検証の際に付された懇話会委員からのコメントに留意しながら施策を推進することで、各施策の課題を的確に把握し、その課題の解決を推進していくことにより、政策能力を高めていくことが求められている。

2 回目の検証評価の意義

本検証は、事業の進捗に関して出来ていないことを見つけてはダメだダメだと論うのが目的ではない。まちを良くしていくために課題を丁寧に洗い出し、政策を改善していくこと、そうした検証プロセスを経て、政策能力の向上を図るのが目的である。

2 回目の検証評価を行なった結果、総合戦略を策定した際に、まちにとって必要であると考えられたにもかかわらず、取り組みが不十分な施策も明らかとなってきた。取り組みができていない施策は、実施に当たっての体制整備が不十分であるといった課題も明らかとなってきた。このようにまちを良くするための課題の洗い出しができたことは、2 回目の検証を実施したことの意義として特筆できるであろう。

「自治の力で輝くまち」に向けて

総合戦略は、住民委員からなる総合計画懇話会での議論を踏まえて策定された。そして、その総合戦略を総合計画懇話会で毎年検証し、まちの政策実施に当たっての課題を明らかにすることができた。住民の自治の力で計画を策定し、検証している。

この検証結果を手掛かりに、町として、総合戦略の各施策が、基本目標・基本的方向性をもとに、施策の持っている政策思想をより明確に位置付け、政策の工夫改善がなされることを期待している。個別の施策が、日野町のまちづくりの文脈でどこに位置付けられているのかを確認しながら、自覚的

に政策の質的な改善を図っていくことを期待している。

総合戦略は、第5次日野町総合計画と関連づけられており、総合戦略・総合計画ともに「施策の総合性」という共通した考え方がある。総合戦略は、総花的に施策を並べて、それを順次実施しておけば事足りるといったものではなく、総合戦略の検証プロセスを通じて、基本目標・基本的方向性を踏まえて「持続的に発展する日野町をつくることを目指して」施策を総合的に展開すること、総合計画の目指す未来像「ひびきあい『日野のたから』を未来につなぐ 自治の力で輝くまち」に向けた取り組みを役場と住民の協働で切り開いて行くことが求められる。

8. 資料編

1) 用語解説

用語	解説
PDCA サイクル	Plan-Do-Check-Action の略称。Plan（計画）、Do（実施）、Check（評価）、Action（改善）の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法のこと
重要業績評価指標（KPI）	Key Performance Indicator の略称。施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標のこと
SNS	ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略で、インターネット上の交流を通して社会的ネットワークを構築するサービスのこと
ファミリーサポートセンター	地域で育児の援助を受けたい人と支援したい人とを結ぶ組織のこと
コミュニティビジネス	地域資源を活かしながら地域課題の解決を「ビジネス」の手法で取り組むことで、地域の人材やノウハウ、施設、資金を活用することにより、地域における新たな創業や雇用の創出、働きがい、生きがいを生み出し、地域コミュニティの活性化につながるビジネスのこと
IT	コンピュータやデータ通信などの情報技術の総称のこと
第2創業	既に事業を営んでいる企業・事業者において、業態転換や新事業・新分野に進出する創業のこと
人・農地プラン	集落・地域が抱える人と農地の問題を解決するための未来の設計図のこと
6次産業化	農業などの第一次産業が食品加工・流通販売までの業務を行うこと
地域おこし協力隊	人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域活動を積極的に行ってもらい、その定住・定着を図ることで、意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域の維持・強化を図っていくことを目的とした制度のこと
日野大当番仲間	江戸時代、日野には他国で商売を行った「日野商人」が多数存在し、商人相互の扶助のため、日野大当番仲間を組織しました。大当番仲間、東海道や中山道の各宿場に現在の指定旅館ともいえる日野商人定宿を設けて、旅の便宜を図りました。（日野町にゆかりある人や応援していただける人、興味ある人など、町の内外を問わず、日野の「たから」を情報発信していただける仲間を、つくりつないでいく仕組みとしてその名称を例示しています。）
Facdbook	ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）の一種

用語	解説
Twitter	ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）の一種
フォローアップ	行なった事柄について、その後も面倒をみること
多文化共生	国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的な違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと
ポールウォーキング	ポールを持って行なうウォーキングのこと
ワーク・ライフ・バランス	仕事と生活の調和のこと
レファレンスサービス	図書館の資料を使い、図書館利用者の調べものをサポートするサービスのこと
おたっしゅ教室	介護の原因になりやすい転倒骨折や閉じこもりによる生活機能の低下を防ぐため、機能回復と外出応援を目的とする介護予防事業のこと
デマンドタクシー	指定の場所から目的地まで、利用者の希望時間帯、乗車場所などの要望に、バス並みの料金で利用できる公共交通サービスのこと
アウトカム指標	施策・事業の実施により発生する効果・成果（アウトカム）を表す指標

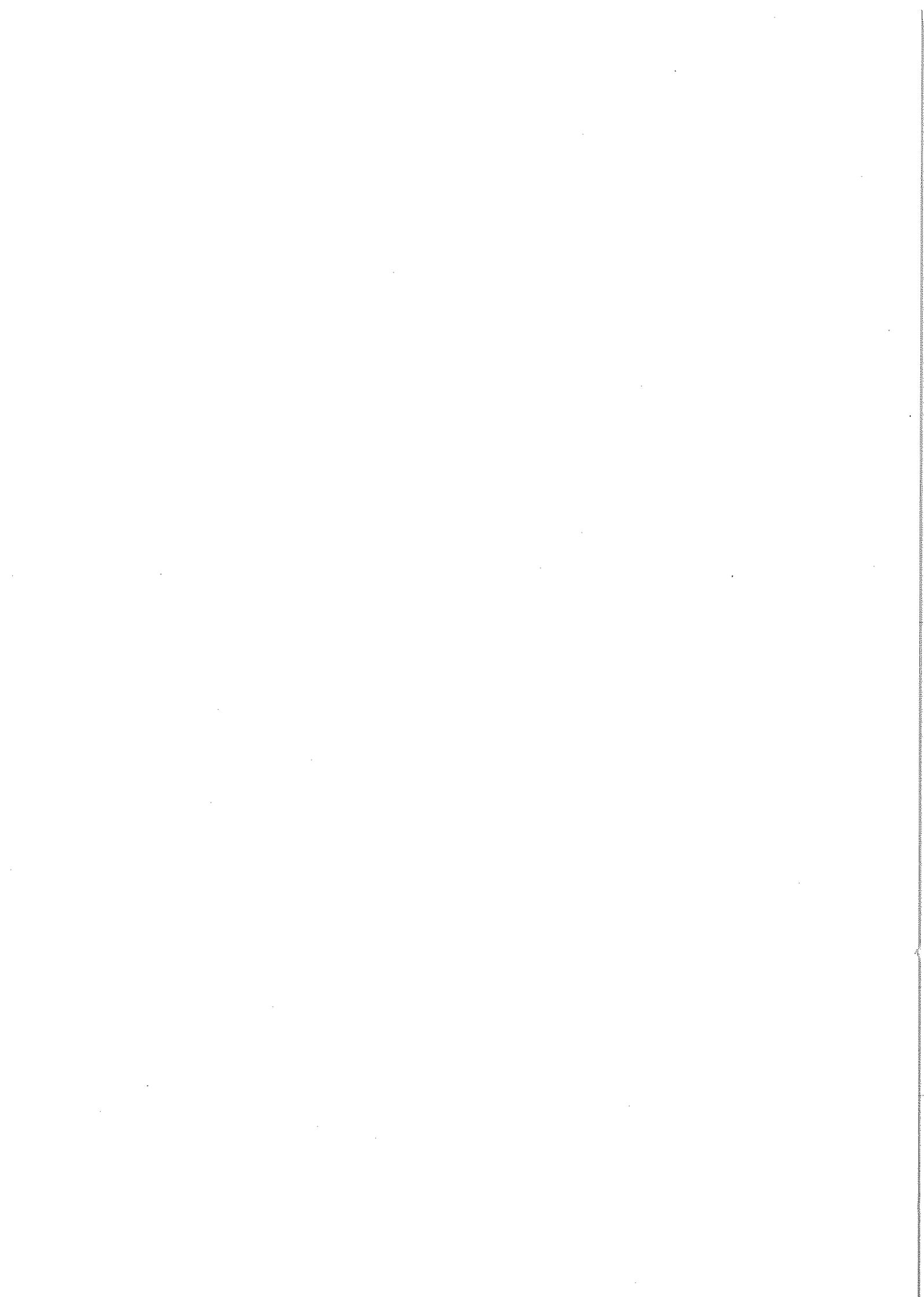
2) 総合計画懇話会の開催

実施日	実施内容	場所
平成29年4月17日	第1回懇話会	林業センター
平成29年5月15日	第2回懇話会	林業センター
平成29年5月29日	第3回懇話会	林業センター
平成29年6月7日	第4回懇話会	林業センター
平成29年6月19日	第5回懇話会	林業センター
平成29年7月3日	第6回懇話会	林業センター
平成29年7月24日	第7回懇話会	林業センター
平成29年8月22日	第8回懇話会	林業センター
平成29年9月6日	第9回懇話会	林業センター

3) 日野町総合計画懇話会委員名簿

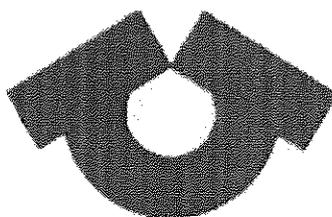
委員区分	氏名	所属・推薦団体等
学識経験者	会 長 只友 景士	龍谷大学政策学部教授
団体等推薦	副会長 山本 身江子	日野町地域女性団体連合会
	岡 伊佐夫	農業関係団体（日野町農業委員会）
	松井 利夫	日野町商工会
	岸村 嘉幸	日野町企業協議会
	遠城 輝雄	日野町老人クラブ連合会
	飯室 佑果（第5回で退任）	日野町連合青年会
	鵜瀬 ゆり（第6回より就任）	地域おこし協力隊

敬称略



日野町くらし安心ひとづくり総合戦略

— 人と人がつながりいきいきと輝くまち —



日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証結果報告書（平成28年度）

平成29年（2017年）9月

【発行】日野町総合計画懇話会
事務局 日野町企画振興課

〒529 - 1698 滋賀県蒲生郡日野町河原一丁目1番地

電 話：0748 - 52 - 6552

F A X：0748 - 52 - 2043
